
〈研究ノート〉

「地域課題の可視化と共有化

～グループスーパービジョンにおける地域課題整理シートの活用～

社会福祉法人 相模原市社会福祉事業団
大学院福祉マネジメント研究科（専門職大学院）15期 2018年度修了
北 澤 和 美

【抄録】 障害者が住み慣れた地域において、その人らしく豊かな生活を送れるよう支援することを目標のひとつに、グループスーパービジョン（以下、「GSV」）を実施してきた。GSVではストレングス視点を活用し、福祉の枠組みを超えた自由なアイデアを持ち寄って支援方法を探り、また障害者が主体的にいきいきと生活できることを目指し地域課題を抽出してきた。しかし、その地域課題は解決されずに山積された状況だった。地域課題を解決するためには、まずこれらを可視化し、GSV参加者と共有化することが必要ではないかと仮説を立てた。そこで、地域課題整理シート（以下、「シート」）を考案した。そして実際に使用し、その効果を検証した。シートの効果は可視化・共有化のためのツールとしてだけでなく、課題解決に向けてGSV参加者の意識変化をもたらすツールにもなり得ることがわかった。

【キーワード】 地域課題整理シート、GSV、地域課題、自立支援協議会、相談支援専門員

I. はじめに

筆者は、2014年11月、社会福祉法人A市社会福祉事業団（以下、「事業団」）に採用され、相談支援専門員として勤務している。2016年12月から障害者相談支援事業所（委託相談）B事業所（以下、「B事業所」）に配属された。

B事業所は法人形態の異なる3法人から相談支援専門員が派遣され、筆者を含め4名のチーム体制で構成されている。筆者は、B事業所の現場運営を担っている。所属の異なる職員による協働・連携のあり方や、委託相談が担う役割や期待にどう応えていくのか、また運営法人に期待される責任とどう向き合えばよいのかを系統的に学ぶ機会を求め、日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科に進学した。

II. 研究の背景と目的

1. 研究の背景

障害者の相談支援は、2006年4月に施行された障害者自立支援法により、市町村及び都道府県

の責務として位置づけられた。同年10月、厚生労働省は「障害者の地域生活を支援するために、個々の障害者の幅広いニーズと様々な地域の社会資源の間に立って、複数のサービスを適切に結びつけて調整を図るとともに、総合的かつ継続的なサービス供給を確保し、さらには社会資源の改善及び開発を推進すること、そしてそれを具体的にを行うのが、相談支援事業であり、その中核的役割をなす地域自立支援協議会の使命である」と明示している（厚生労働省2006）。

このような背景を受けて、A市障害者自立支援協議会（以下、「協議会」）は市の実状に合った相談支援のあり方を施策提言するための検討会議を集中的に実施し議論を重ねてきた。主に、①官民協働による相談支援体制の構築、②身近な地域に応じた重層的な支援体制の構築、③他分野領域との連携による支援体制の構築、④相談支援の資質の向上と中立性・公平性・専門性の確保（A市自立支援協議会2012）を目指し、障害者相談支援事業がA市から事業団に委託され、B事業

所が設置された。

協議会は地域課題を解決するためにサービス基盤の整備を進める役割があり、B事業所には個別支援から地域課題を抽出し、協議会へつなぐ架け橋の機能が求められている。このことから、B事業所ではGSVの手法を用いて、官民協働・民民連携の下、A市内障害者相談支援事業所、社会福祉協議会、行政機関等と連携し、地域課題を抽出してきた（図1）。

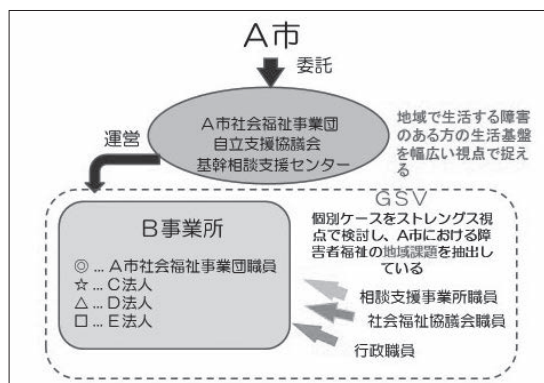


図1 B事業所関連図

GSVは支援者が協働し、ストレングス視点を用いて個別ケースを見つめ直すことで、対象者を多角的な視点で捉え、これまで気づかなかった支援方法を見出すことができる。このことは、ケース支援に困難さを感じ、疲弊する支援者に新たな視点が生まれたり、同じ課題に取り組む支援者から勇気づけられたりといった「支援者支援」の効果が得られる。このように支援者がエンパワメントされることにより、当事者にもより良い支援が提供されることが期待できる。

B事業所が実施しているGSVは、前半約1時間40分は個別ケース検討、後半約20分間で事例から見える地域課題を抽出している。しかし、筆者は多くの支援者が参加するGSVで抽出された地域課題がそのままの状態にあること、課題解決に向けて具体的にに取り組むことができない状況にあることを問題視していた。

そこで、地域課題にアプローチするための有効な方法はないものか、また有効なツールはどのようなものなのかを研究するに至った。

2. 研究の目的と意義

本研究の目的は、地域課題を可視化・共有化するためのシート考案により、地域課題を協議会へ提議することを可能とし、既存の地域資源の活用や、地域資源の掘り起しなど具体的な取り組みにつなげていくことである。

これにより、障害者が住み慣れた地域で暮らしやすい生活を送ることができる。

Ⅲ. 研究の方法

1. 報告会実施

地域課題へ連携した取り組みができるよう蓄積されている地域課題を可視化・共有化するための報告会を実施した。そして今後、地域課題へ具体的にに取り組むためのツールとしてシートを考案した（図2）。

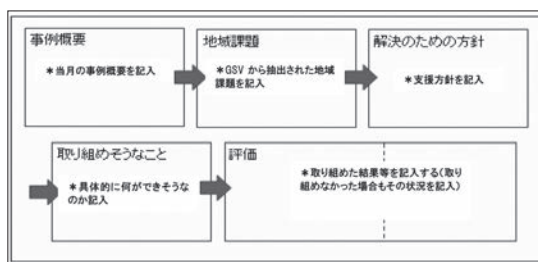


図2 地域課題整理シート

1) 参加者

GSVに参加する相談支援事業所、社会福祉協議会、民生委員、行政機関、基幹相談支援センター等 26名

2) 日時・場所

2018年7月11日 10:00～12:00

B事業所

3) 報告会内容

これまで抽出されてきた地域課題をグラフ化し紹介した。そして今後の取り組む方法としてツールの必要性を説明、シートを考案した。シートに関して、地域課題取り組みについて意見交換をおこなった。

2. グループインタビュー調査

シート考案に関する関心度、また今後シート活用によるGSVについて、その有効性等ヒアリ

ングした。

1) 対象者

以下3点を考慮した上で3名選出した。

- (1) GSVにはほぼ毎月参加している者
- (2) 支援対象者の主障害に偏りが無いこと
- (3) 実務経験に偏りが無いこと

2) 日時・場所

2018年10月9日 12時15分～(約35分)

B事業所

3) インタビュー質問事項(以下、5問)

- (1) これまでGSVにて地域課題が抽出されてきましたが、それに対するご自身の取り組みについてどう思いますか?
- (2) 報告会において、シートが考案されたことについてどう思いましたか?
- (3) GSVの中で新たにシート作成に取り組むことについてどう思いますか?
- (4) シートの項目についてどう思いますか?
- (5) シートの有効性・課題についてどう思いますか?

4) インタビュー方法

インタビュー調査時は、質問内容を記した用紙と、報告会で提示したシートを手元に配布した。

5) 記録方法

聴き取り内容はICレコーダーに録音(録音時間27分49秒)、逐語録で記録した。

3. アンケート調査

シート試用から4か月経過したGSVについて、その効果を測定するために実施した。

1) 対象者

11月実施のGSV参加者。当日欠席した対象者については郵送した。GSV参加者21名(7月～11月当月までにGSVに1度も参加していない者については対象外とした)

2) 調査期間

2018年11月14日～26日

3) アンケート質問内容(以下、4項目)

- (1) シートの項目についてどう思いますか?
- (2) シートを作成するにあたりGSVの時間配分についてどう思いますか?

(3) シート作成にあたり、今後の業務・活動における参考度はいかがですか?

(4) シート使用のGSVについて自由なご意見をお聞かせください

アンケート回答にはアナログスケールを採用、また項目毎にそう思う理由を記入する自由記載欄を設けた。

4) 回収率

76%(21名中16名より有効回答を得た)。

4. 倫理的配慮

1) グループインタビュー調査

依頼文書に調査目的、配慮事項を記載、同意書・取消書を添付し、同意書署名をもって本調査への承諾とした。またICレコーダーにて録音する旨説明した上で同意を得た。

2) アンケート調査

本研究の目的を説明、回答については任意回答であることを伝え返信用封筒を配布した。グループインタビュー、アンケート調査いずれの調査についても、得られたデータは匿名化し、統計的处理を行い、研究者以外の第三者が触れることはしないことをグループインタビュー調査では口頭で、アンケート調査については依頼文書に記載した上で説明し同意を得た。

IV. 結果

1. 報告会

「様々な分野の方々と会えてよかった。いろいろな情報を仕入れることが出来た」、「地域課題について分野問わず一緒に考える事から始まるのだと思った」、地域の中に、あたりまえにあるつながりをつくっていききたい」、「地域課題は協議会で解決するものとはばかり思っていた。報告会に出席したことで、様々な分野の支援者と知り合う事ができて刺激を受けた。できることから始めたいと思った」のように連携について触れた声があった。蓄積されている地域課題については「どうしたらよいのかと思っていた」と感想を述べていた。

そして「今回考案されたようなシートがあればイメージが湧く」、「地域のストレングスは何か、

取り組みそうなことは何かを検討し、実際にどのような形で取り組んでいくことができるのか、協議会にあげていくのか、地域の中で取り組むのか、他機関と連携して取り組む可能性はあるのか等整理を行い、その流れや結果について評価するという流れは非常に良いのではないかと思います」といった具体的にシートに沿った地域課題解決へのイメージを持った声もあった。報告会でシート記入例を提示したことについては、「イメージが持てた」、「限られた時間に（シート作成まで）取り組めるか不安もあるが、継続してやっていくことで皆が共有できて良いと思う」、「とてもスマートに出来ている。（事例の）振り返りの時などとても有効だと思う。しかし今後バージョンアップする必要はあると思う」、「“取り組みそうなこと”という項目を記入する時は、参加者が発言しやすいと思う。試行を重ねてより良い形が見つかると思う」、とシートへ期待する声もあった。

一方、「GSVで地域課題を抽出するにあたって大事なことは、個別ケースからの確な地域課題を抽出することである」と相談支援の基本姿勢を示す声もあった。

2. グループインタビュー

語られていた内容を逐語録で記録し、KJ法を援用し大項目、中項目のカテゴリーに分け、整理・分析した（表1）。

3. アンケート調査

1) シートの項目についてどう思いますか？

7.1～10.0までに全体の約8割のスコアが集中していた。そして、そのうち5割が7.1～8.0に、次いで3割が9.1～10.0に特に集中していた。

“シート全体の意見”として、「地域課題に対してまず方針をたて、これに必要なと思われるアプローチを書きだし、自分達にできることを考えるという流れがとても良い」、「地域課題を解決するための方針が一目で分かり易く、取組めそうなことまで具体的に見えるのが良い」との意見があった。シート作成取り組みの流れとしては、「右側へ向かう（⇒）一方向ではなく、時には立ち返って修正ができるよう双方向の矢印である方が、柔

軟な方針がたてられるのではないかと指摘する意見もあった。“評価”項目についての具体的な意見は、「“評価”は、“取り組みそうなこと”をもとに“行動”とした方が合致しているのではないかと」、「“評価”は今後使用していく中で、相応しいか否かが判断されるのではないかと」の声があった。

「“解決のための方針”と“取り組みそうなこと”項目については、曖昧な表現であるため、うまく切り分けられず、ファシリテーター役を担う時、スムーズに進行出来るか不安」というように、これまでの方法より更に高度なファシリテーター役の技術が求められるのではないかとということについて戸惑う意見もあった。

一方3.1～4.0の下位スコアには、「難しくてわからない」、「“評価”の枠が点線で区切られていることは活用方法が不明瞭」と課題点を述べた意見もあった（図3）。

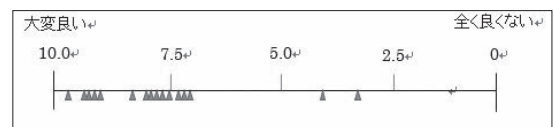


図3 シートの項目について

2) シートを作成するにあたり GSV の時間配分についてどう思いますか？

7.1～10.0までに全体の5割強が集中している。その中で7.1～8.0に5.5割、8.1～10.0に4.5割が分布している。「2時間の枠で収めるのが丁度よい。集中力持続の点からも妥当ではないか」、「検討する時間は十分ある」との意見がある一方、「地域課題が見えにくい事例や、アイデアが絞りきれない時などには相当の時間を要する」、「もう少し時間をとった方が検討が深まる」と、限られた時間の中でシート作成を目指すことについて懸念する意見もあった。また、「最初にファシリテーター役から参加者に時間配分を説明することが必要」のようにある程度の見通しを提示することで参加者自身にも時間配分を意識してもらうことも必要という要望もあった。そして「ファシリテーター役の時に、限られた時間の中でシート作成までの

表1 地域課題整理シートに関するグループインタビュー調査結果

GSV	アイデア 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の再確認にさせてもらっている。 ・自分の支援の方向性で間違えていないのだと確信が持てる。 ・自分のケースと共通している時には支援の参考にしている。
	効果	<ul style="list-style-type: none"> ・提出ケースを通じて、地域の問題や世の中について考えるしくみが新鮮だと思う。 ・これまでの支援と少し違う支援ができるような気がする。 ・個別ケースの振り返りと、地域課題への取り組みを考える等、自分自身に2つの側面から変化がある。 ・皆で検討することでリフレーミングされることで、支援への考え方が変わる。 ・多くの仲間と集まれる機会がすごく良い。 ・ベテランから新人への支援のアドバイスや情報もたらされる良い機会だと思う。
地域 課題	整理	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで蓄積された地域課題を整理していくのはすごい量だと思う。 ・過去のものについて既に整理しているのだろうか。
	参加者の 思い	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組むことで、自分の取り組みのズレや一致を再確認できる。 ・これまで意識して取り組んでいたかと問われれば、出来てはいないな・と思う。 ・“地域課題”という言葉自体が広域な感じで、ピンときていない。 ・“これが地域課題だ”と言えるようにならないといけないのだろうと思う。 ・日頃の業務に追われなかなか考えられていない。抜けがちである。 ・GSVで地域課題を抽出するのは珍しいな、と思った。 ・地域課題って難しい。
	他職種参加	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の支援者が集まることで、いろいろな意見が出る。 ・行政職員等はなかなか支援現場について、実感が持てないと思う。 ・民生委員や、他職種の方の参加の時には専門用語を知っていないと話し合いが難しいこともあると思う。 ・地域の事など、より大きなことを話し合う時には、他職種の方は参加しやすいと思う。
	自職場の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題を出したところで、その後どうするか・と止まっている。 ・以前から“地域課題への取り組み”と言われていたが、日々の業務ででは止まっている。 ・一人、二人で考えるのはとても難しい。 ・職場内の少ない人数で考えても、煮詰まってしまう。 ・これまでの事例検討では、個別ケースを検討するに止まっていた。
	役割	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の解決にむけて自分達が実施していくということなのだと思う。 ・実際にシートに落とし込んで行く作業を通じて、地域課題に取り組むということが大事なだと思う。 ・現状止まっている状況で、これをまとめていくのはキーステーションの役割にマッチしていると思う。 ・行動の意味付けとしても良い。
地域 課題 整理 シート	使用した 感想	<ul style="list-style-type: none"> ・正直なところ最初は難しそうだな、と思った。 ・これまでのGSVの時間配分と比べるとタイトになる面もあるのかもしれないが、そこまで抵抗感を感じていない。 ・時間配分について、そんなに大きな変化は感じていない。 ・この先を考えるというのが、また一つ新しいなと思った。 ・“ここまでするんだ！”と率直に思った。 ・“取り組みそうなこと”というのを考えるのは、すごく大事なことだと思った。
	要望 希望	<ul style="list-style-type: none"> ・シートが事例と一緒に手元にあると、ポイントが見やすいため、持ち帰りたい。 ・事例を見直す時に、振り返りやすいので、シートと一緒に保管したい。 ・現場の支援者の声をまとめてあげていくものとして活用されると良いと思う。 ・将来、制度改正などに活かしていけるような、そういう流れができると良い。 ・このシートが集まった後、どのようになるのか提案されると良い。 ・今後これがどうなるのか等、更に示されると良い。
	意識 変化	<ul style="list-style-type: none"> ・シート作成に慣れていき、参加者が当たり前のようになれば、“地域を耕す”という意味でも良いのだと思う。 ・自分自身の気づきになった。 ・シート作成することにより刺激になる。 ・最初は慣れなくても少しずつ慣れていくことで、脳内変化、思考回路が変わっていく。 ・地域へのアプローチを再確認する。 ・このようなたたき台があることで、自分の考えをまとめていくトレーニングにもなる。
効果	可視化	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な意見交換も必要だが、形に残ることが良い。 ・目で見て書く。それが良い取り組みになる。 ・言語化して文字化していく作業はすごく有効だと思う。
	共有	<ul style="list-style-type: none"> ・共有する為にも、推進していくためにも良い。 ・ケースの要約版としても面もある。 ・シートが無いと、考える機会もない。 ・GSVに参加しなかった職員へも共有できる。 ・参加者の意見をまとめ、その道筋が一つにできる。
項目についての 改善点		<ul style="list-style-type: none"> ・“評価”という項目は重い。 ・“評価”は“取り組みそうなこと”に対して、“取り組んだこと”として記入すればよいのではないかな。 ・“評価”はこれを作成した時に記入するものではないのではないかな。 ・“評価”は総評的なものを書くのか、具体的なものを書くのか難しい。

進行がうまくできるか不安」との意見もあった。

5.1～7.0には全体の3.1割のスコアが集中した。「参加者それぞれの捉え方の違いなどにより、内容によってはシートへの落とし込みが難しいと思う。その分、時間を要すると思う」、「そもそもGSVで個別事例を深めたい参加者と、地域課題まで深めたい参加者と温度差がでる。その妥当な線は2時間だと思うが、時間が足りないと思う事もある」とGSVへの期待値により目的が変わるとの意見があった。1.1～3.0は全体の1割強であった。「シート作成は別の時間で行う方がよい」とする意見や、「シート作成は最後の枠に別枠で行うのではなく、GSV個別検討時間に組み入れてしまうのも良いと思う」といった意見もあった(図4)。

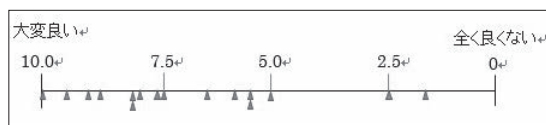


図4 シートを作成するにあたり GSV の時間配分について

3) シート作成にあたり、今後の業務・活動における参考度はいかがですか？

7.1～10.0は7.5割のスコアが集中した。「可視化することで地域課題が客観的に見える。日々の支援に参考になる」、「「取り組みそうなこと」が記載されるため、実際の取り組みに参考になる」、「課題解決は容易ではないが、課題を意識することは相談業務に役立つ」、「シートにより可視化され、その行程が示されることで、自分自身の役割を担い、果たしていくというイメージが持てるようになる」、「一人で考えこむことなく、連帯して考える場が保障され、普段の仕事への向き合い方にゆとりが持てる」との意見があった。

一方、3.1～7.0までは2.5割であったが、「参考にできたら良いと思っているが、まだ上手に活用できていない」、「まだわからない」、「できたら良いと思うが、行政全体で取り組むことも多く、その整備から必要だと思う」のように、実践現場でシートの有効活用までは至っていない現状にあ

ることや、社会資源の不足、その開発には行政側の整備体制の必要性を問う意見もあった(図5)。

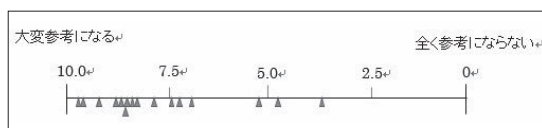


図5 シート作成にあたり、今後の業務・活動における参考度

4) 自由意見

「視覚化することで誰もが分かりやすく、課題と評価が明確化できることは有意義である」、「地域課題をあげることを意識してしまうと本来のGSVの趣旨から離れてしまうように思う」、「“評価”欄が埋められず据え置きになる恐れもある。定期的にシートを確認することが必要」、「システムや協議会などにあげるべく内容については、しっかりとその流れにのせていく必要がある」、「シートに記載した役割分担は言いつばなしにならないように後追いつめる必要がある」、「シートで整理されたことが何らかの形で実現につながることで、参加者の機運もより高まる」との意見があった。

V. 考察

1. 報告会

今回のような、地域課題の可視化、共有化を目的とした報告会を実施したのは初めてであった。GSVの年間実施予定日は年度開始早々に各事業所や関係機関に周知している。今回の報告会を毎月実施しているGSVと同じB事業所にて実施したこと、開催日を7月のGSV予定日にしたことで、予めスケジュールを調整されていたことも欠席者なしであったことの一要因と考えられるが、参加者の報告会に対する興味・関心の高さも、それに加味されていたのではないかと考えられる。出席者がこれまでの取り組みについて振り返ることで自身の課題に気づき、今後抽出されていく地域課題に具体的に取り組むために、今回考案したシートを活用するイメージは持てたのではないかとと思われる。

また出席者の意見により、地域課題が適切に抽出されるためには、まず個別ケースに対してきちんと向き合い、適切なアセスメントがとられることが必要であり、個別ケースに真摯に向かう姿勢から抽出されるものであるという認識を大事にする必要性に気づかされた。このように GSV は地域課題を抽出することのみが目的ではないという視点も失わないようにすることを改めて再認識した。

シート考案について、非常に関心が高かったことについては、皆共通して地域課題解決への糸口を求めていたことの表れであり、“これならできるかも！”という印象を持ってもらえたのではないかと思われた。

多職種が一堂に会し、地域課題取り組みについて考えることができたことで、参加者が協働の意識を持ち、地域課題取り組みへ報告会が果たした役割は大きかったと考えられる。

2. グループインタビュー

1) 大項目【GSV】

中項目【アイデア・方向性】【効果】

自分自身の支援を振り返る場として活用していることや、仲間と検討することで得られる気づきや学びの機会として有効性が語られており、GSV に期待される役割やストレングス視点を用いて行う GSV の手法が、本来の目的を十分達成していることがわかった。

2) 大項目【地域課題】

中項目【整理】【参加者の思い】【多職種連携】【自職場の課題】

「これまで抽出されてきた地域課題についてどのように整理されているのか」のような疑問点が語られていた。実際これまでも GSV 参加者より、“今までの地域課題はどうなっているのか?”、“こうやって毎月地域課題を出しても何も変わらない”との声もあがっていた。今回の調査で同様の意見があったことは想定内であった。地域課題への取り組みは本来、支援者が協働で取り組むものという認識に立つ必要があるが、「日々の仕事に追われそこまで考えられない」、「ピンとこない」

と語られているように、現状では日々の業務に組み込んでいくことが困難な現状にあるのだということが改めて浮き彫りになった。

最近の GSV には相談支援専門員のみならず、他職種の参加も多くみられるようになってきている。これにより具体的な地域課題解決方法が検討されることはいうまでもないが、一方、職性の違いによる、支援現場における専門用語を共有し、共通言語として認識する必要があると理解できる。

昨今、多職種連携の必要性・重要性が求められている。お互いの役割を知り、お互いの職性を知ることも有効な GSV にするために大事なことであると考ええる。

相談支援専門員の職場は少人数であることが多い。地域課題への取り組みについては、自職場内の少人数で話し合うより、地域の支援者が多く集まり、お互いの知恵を持ち寄ることで得られる高揚感が、ソーシャルワークへの意識を高めるのだと思う。より広い視野を持ち、それに取り組むことは容易いことではない現状にあることがわかった。協働で話し合うことができる GSV の必要性が語られており、GSV が支援者同士のつながりの場としてその役割を果たしているのだと考える。

3) 大項目【地域課題整理シート】

中項目【役割】【使用した感想】【要望・希望】

報告会で考案したシートについて、「最初はここまでやるんだ！」と驚きの気持ちを抱いたことや、「(シート作成は) 難しそう」といった不安な気持ちが語られていたが、シート作成については能動的な感想が語られていた。地域課題への取り組みについては、誰が主軸になって取り組むのか、明確にされることはなかった。しかしシート作成を GSV 参加者協働で取り組むことにより、「自分達が主体的に取り組むのだということに気付きを得た」と語られていたように、シート作成に携わることで、当事者意識が芽生えたのではないだろうか。個別ケース検討から地域課題抽出、その後の取り組みに関わることで、参加者の地域課題へ

の意識化に非常に有効であるといえる。

そして作成したシートを自職場へ持ち帰ることにより、地域課題を自職場で見直す機会を与える効果もある。また、「現場の声をあげていくためのツールとして活用されると良い」と語られていたように、協議会等への発信するためのツールとしても期待しているのだということもわかった。協議会で施策提言することは容易いことではないが、一方で協議会が求められている役割、そして協議会が果たしていかななくてはならない役割もある。地域課題を次のステージへ“つなぐ役割”“つながれる役割”にアプローチするためのツールとしてその一端を担えるのではないだろうか。

4) 大項目【効果】

中項目【意識・変化】【可視化】【共有】

シートを活用することにより、参加者の意見をまとめることができる。具体的に取り組むためには、その方向性を一つに定めていくことも必要である。これにより可視化、共有化できる。“共有するためのツール”としての側面と、“意見の集約”、という“この先へ”と活用するためのツールにもなり得るのだということがわかった。協議会に提議していくのか、既存の社会資源を活用するのか、また社会資源の開拓なのか、その先へつないでいくことが期待できる。

また、「言語化して文字化していく作業は有効である」、「意見交換で終わるのではなく、形に残ることが有効である」と可視化することのメリットが語られていた。GSVは、自由な意見、独創的なアイデアなどを活発に取り入れた検討方式であることで、自由な議論で終わるだけで良い場面もあるが、可視化することで具体的な取り組みへつながるものであると考えられる。また、シート作成により自分自身の振り返りや、思考の変容により、自分自身の変化への期待や、考えをまとめていくトレーニング効果への期待もあると考えられる。

5) 【項目についての改善点】

評価項目について、その妥当性を疑問視する

意見が多く語られていた。これについては今後、実践を通して検討されるものと考えている。

6) 地域課題解決フロー

表1を元に地域課題解決フローを作成した(図6)。個別ケースより地域課題を抽出し、シートを活用することで、どのような取り組みができるのか可視化・共有化する。皆で話し合う中で地域課題へ意識化が促進される。そして実際にできそうなことを探ることで、具体的な解決策や取り組みがみえてくる。その後、実際に取り組んでみるものの方向づけが可能となり実践できる。そしてその取り組みがどうであったのか、シート作成により明確に振り返ることが可能となる。この一連の流れに沿って考えると、地域課題について、何らかの取り組む方法を見出すことで個別ケース課題へ還元されるのだということが明らかになった。まさにPDCAサイクルに沿った効果が期待できることがわかった。

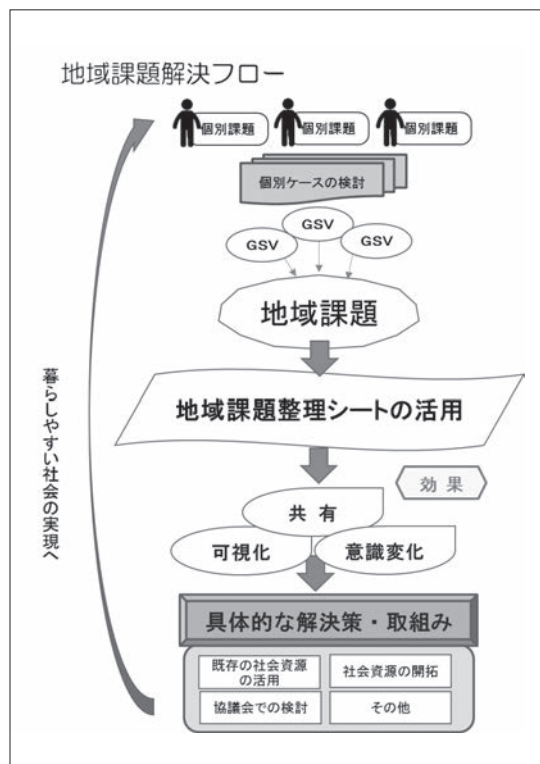


図6 地域課題解決フロー

3. アンケート調査

1) シート項目について

概ね高い評価が得られた。シート作成が流れに沿って行える仕様になっていることは取り組み易いのだろうと考えられる。しかし“評価”項目については、いつの時点の評価するものなのかが曖昧であるという趣旨の意見があった。シート考案の際、最も検討を要した項目であったことから、このような意見があるのは想定内であった。この“評価”項目については、必ずしもシート作成時に記入できるものではないと考えていた。地域課題によっては、方針をたてたものの実際には取り組む方法が見つからず、空欄になってしまう地域課題も多くあると見込んでいた。しかしこのシートに地域課題を落とし込むことで、形に残るため、これまでのように埋もれてしまうことだけは避けられる。そしてシートを見返すことで、“評価”項目が空欄になっている地域課題について、その取り組み方法を再検討することも可能になると考えている。

2) GSVの中でシート作成する際の時間配分について

その評価は5.0ポイント～10.0ポイントまでに広く分布している。2時間のGSVはこの時間内で行うには妥当であるという意見が大半であった。しかし、シート作成までその時間に含めることについては、前半の個別ケース検討と、後半の地域課題抽出では、どちらか一方に重きを置いている参加者がいる場合には、参加者間にGSVへ期待度に差が生じる可能性が懸念されることが分かった。

また、地域課題抽出に時間を要する場合には、シート作成までの時間を確保することが難しくなり、深い検討にならず、シート作成そのものの有効性が問われることも懸念される。シート作成について限られた時間内で完成させることのみ重きが置かれると、本来の地域課題抽出の意味をなさなくなる。時間超過により検討が途中で終わった場合、どこか別の機会に再度検討できるようにするなど、対応については課題であると考ええる。

3) シート作成にあたり今後の業務・活動における参考度

多くの回答より、可視化することにより今後の支援、取り組みの参考になるという前向きな意見が得られた。そして、可視化することにより、自分自身の役割が明確になり、地域課題を意識することが可能になるのだと分かった。

またシート作成に概ね能動的な意見を持っていることがわかったが、一方で少数だが、「難しくてわからない」、「まだわからない」という意見も寄せられた。参加者一丸となってGSVをより良いものにしていくためには、どのような工夫が必要なのか、模索する必要があると考える。

Ⅵ. 結論

今回の調査の中で、GSVが求められている役割を改めて認識した。そして官民協働・民民連携の取り組みが既にGSVにはあること、そこを共通の場として地域へ広がっていくネットワーク体制があるからこそ得られた貴重な意見が多かったと思っている。報告会から始まった本調査では、シート考案について様々な角度で多くの声を得られた。調査結果はどれも地域課題取り組みへ多くの可能性を語っており、シート考案が、その取り組みへ一つのきっかけとなり得るのだということがわかった。シートがもたらす効果はこれから真の“評価”を受けることになるのだろうと思う。

Ⅶ. おわりに

派遣された相談支援専門員にとってB事業所が有効なOJTの機会であることが期待されている。お互いに切磋琢磨しながら相談支援のスキルを磨くことで、それぞれの所属法人に寄与することが望まれている。報告会では、数年来抽出されてきた地域課題を可視化、共有化する機会を得ることにより、相談支援専門員他支援者がその取り組みを改めて認識してもらうことが出来たと同時に、B事業所が企画し、実施することで派遣されている相談支援専門員にとっても非常に大きな達成感となった。地域課題への具体的なアブロー

チを推し進めるためのツールとして考案したシートは、まだ完成形をなしているとは言い難いが、今後、GSV 参加者や各関係機関の支援者による、多くの実践を通じより良いシート完成を目指していく。現在このシートは基幹相談支援センター実施の GSV でも活用され始めている。参加者からは「(地域課題の) この先を考えるのが楽しくなってきた」といった感想も聞いている。

この取り組みが共生社会実現へ小さな一歩だと確信し、これを積み重ねていくことが、大きな役割を担えるものと信じ今後も邁進したいと思っている。

謝辞

本研究は、専門職大学院在学中に取り組んだ実践課題研究をまとめたものです。本研究の目的に理解を示し、グループインタビュー調査・アンケート調査に快くご協力頂いた皆様に感謝いたします。またご指導いただいた古屋龍太名誉教授をはじめ専門職大学院古屋ゼミの先輩・同輩に感謝いたします。

<引用文献>

厚生労働省 (2006) 「障害者自立支援法における相談支援事業の概要について」
A 市障害者自立支援協議会 (2012) 「A 市の相談支援体制のあり方について」 1,9-10

<参考文献>

隅河内司 (2013) 「地域福祉推進における実践と政策の連関について—地域福祉推進の仕組みとしての障害者自立支援協議会の可能性—」『佛教大学大学院紀要』 41,15-32
隅河内司 (2018) 『障害者相談支援における「実践課題の施策化」の理論形成—ソーシャルワークと自治体福祉政策の発展—』 ミネルヴァ書房